

長谷川 望牧師

* 「またイエスは道の途中で、生まれつきの盲人を見られた。弟子たちは彼についてイエスに質問して言った。「先生。彼が盲目に生まれついたのは、だれが罪を犯したからですか。この人ですか。その両親ですか。」イエスは答えられた。「この人が罪を犯したのでもなく、両親でもありません。神のわざがこの人に現れるためです。（ヨハネ9：1～3）

「因果応報」は元々仏教のことばで、良い事にも悪い事にもその原因がある、という意味だが、先祖崇拝と結びついて今の悪や困難は先祖の祟りと考える人も多い。当時イスラエルでも重い病気や肉体の不幸は罪の報いであると考え方が強かった。イエスの弟子でさえそう思っていた。一体だれが悪いのか。主イエスは答えた。

「神のわざがこの人に現れるためです。」人のわざではなく神のわざなのである。

* 「神のわざ」の第一の意味は、この人が今盲目なのは神の意志によって神の計画の中でそうなっているということである。神が何かの目的のために盲目にされているのである。科学の世界では結果についての原因の追究は必要であろう。しかし、理性や科学では解決がつかないことが多い。神がこの人を見えなくされたのだ。

* もう一つの「神のわざ」は、私たちに奇跡と思えるわざを神がなさるということである。実際この人はイエスに唾で作った泥を目に塗られ、言われた通りシロアムの池に行き洗ったら見えるようになったのである。この人は目を開けられて、喜びあふれ、人には別人に見えたのであろう。

* わたしたちは、わたしを遣わした方のわざを、昼の間に行わなければなりません。だれも働くことのできない夜が来ます。わたしが世にいる間、わたしは世の光です。（ヨハネ9：4～5）主イエスは、父から遣わされた使命を地上にいる間にできるだけ果たさなければならなかった。ご自分が神の御子であり、救い主であることを証明されたのである。

* 筆者の祖父は盲目であった。明治時代、宣教師が建てた盲学校に入ってイエス・キリストに出会い、クリスチャンになった。肉体的な目は相変わらず見えなかったけれども、神を見る霊の目を開けられて祖母と共に豊かな信仰生活を送ることができた。まさに「神のわざが現れる」ためであった。人を救うという大目的のために神は不思議なことをされるのである。